



2023年度 活動計画

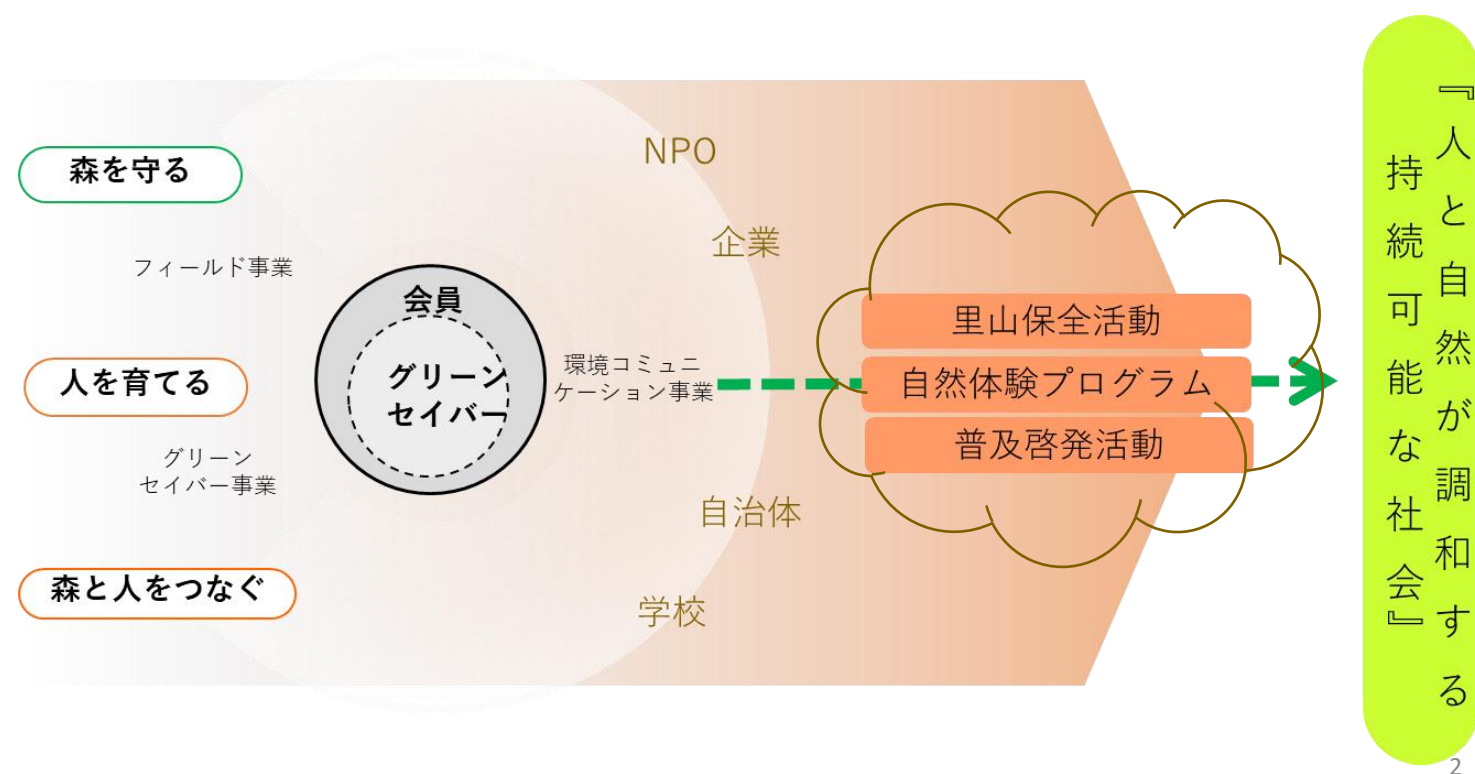
樹木・環境 ネットワーク協会



持続可能な社会とどうつながるか

私たちの活動～行政との連携や企業との協働が、持続可能な社会づくりや個人の生き方にどんな意味をもたせることになるのか。それは、複雑な理論をもって説くのではなく、私たちの活動を見てもらうことが出発点です。私たちの活動がよく見えない、どこを目指しているのかわからないという声がかけられます。気軽に参加したい人、真面目に取り組みたい人、多様な参加者に開かれた情報を、オープンにして知ってもらい、参加のしやすい場づくりに力を入れていく必要があります。

人の社会の発展は、「集団知」の賜物と考えられています。持続可能な社会づくりにも多くの人たちの知恵の蓄積が必要です。私たちの活動の見える化を促し、対話の機会を増やし、多くの人たちにかかわってもらいたいと考えています。





森を守る



継続的な森林保全活動

気候変動対策や生物多様性保全はますます重要課題となってきました。社会的にも、そうした背景から、森林保全活動の取組に対して関心が高まっています。今後も継続的に、森林整備・保全の推進し、地域づくり・コミュニティづくりなどの森林コモンズとしての価値を発信していきます。

2023年度 フィールド

- 01.上野動物園 緑化ボランティア
- 02.町田 三輪里山
- 03.多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 04.武蔵野の森から学ぼう
- 05.千葉おぐらの森
- 06.嵐山ふれあいの森
- 07.二宮蜜柑倶楽部
- 08.八ヶ岳ワーキング
- 09.交野・森フィールド
10. レッツ久宝探検隊
- 11.御杖村フォールド
- 12.和歌山ワーキング
- 13.本町田宿ふるさとの森
- 14.奄山ふれあいの森

フィールド活動の活性化

里山の恵みを使う・楽しむ

里山は従来人の利用により豊かな環境が保たれてきました。整備・保全活動では、除草や伐採により、里山で行われてきた整備を進めつつ、人の利用を促進する取り組みも行われています。

二宮フィールドでは、みかん畑の整備とみかんの育成・収穫を軸に、多くの方が自然のめぐみを楽しむ活動を。三輪里山では、キノコ芝居、外来種の駆除、養蜂などの取り組みも。武蔵野の森では、皆伐更新による雑木林の育成を都や大学と連携した活動も行っています。森が育むサービスとしての価値を高める活動につながっています。

地域に開かれた里山活動に向けて

地域の人たちとともに、あるいは地域を巻き込んだ里山保全活動は、当協会の課題でした。これから、里山をさまざまな形で楽しみながら活用するという視点で、地域を巻き込み、また、聚のイベントや自然体験などのさまざまな活動を巻き込んだ活動に展開すべく、模索しながら進めていきます。和歌山フィールドでは、活動開始20周年を記念して9月に地域交流のイベントも計画しています。



人材育成・教育の場として

フィールド活動の人材育成を目指し、技術的な講座としてスタートした里山林塾は7年目を迎え活動もスタートしています。修了生のなかから、他フィールドのリーダーを担うメンバーでくるなど、徐々に人材育成の成果も見えてきました。里山での学びに加えて、里山を楽しむ視点を大切に、里山の新たな価値を引き出されることが期待されます。



グリーンセイバー企画関連

GS企画

グリーンセイバーが運営・実施する一般向けの観察会や講座を行うGS企画。引き続き、グリーンセイバーの発案で作り上げていく各種プログラムを実践していきます。

- 1) 子どもワクワクプロジェクト
未就学～小学生（全学年）を対象とした自然体験プログラム
- 2) 自然に親しむ講座
深く自然を学ぶことができる講座的プログラムの実施
- 3) これからはじめる自然観察
自然観察をはじめたい、はじめたばかりの方を対象とした自然観察プログラム
- 4) GS研修・勉強会
グリーンセイバー同士で勉強したり教え合ったりして学ぶ場。

GSゼミ

年度当初から開始したGSゼミは、観察会や講座を実施する人材を育てることを狙いとしています。年度前半は、観察会、講座を体験してもらうプログラム、後半はワークショップを通してプログラムを作っていく内容を予定しています。次年度も引き続き、継続する予定です。

グリーンセイバー資格検定

グリーンセイバー資格検定 ネイチャー＆カルチャー試験はCBT方式に

全国どこからでも受検できるように、2023年度からCBT試験方式（全国の受験会場からパソコンを使って受験する方式）を実施することになりました。8月5日（土）14-16時にネイチャー、8月6日（日）14-16時にカルチャーの各試験を行います。

これまでとは異なる方式ですが、全国の会場から受けられるメリットを最大限活かせる方式ということに期待をかけています。

広告についても、あらたにネット広告を採用して、より多くの人の目に触れるような試みを始めます。

マスター検定については、従来通りの方法で継続します。



グリーンセイバーマスターテキストの改定作業開始

2020年度に、かつてのベイシック・アドバンスのテキストをネイチャー、カルチャーへのテキストへと改定を行いました。マスターテキストも発刊以来、時間が経過し、改定が求められています。2023年度は、改定作業の開始にあたり、テキストにどのような内容を入れていくかを議論する場を設けていきます。

当協会の現在・未来の活動を見越して実践に役立つ内容を検討していきたいと考えています。



継続的な協働事業の推進

法人・企業との協働活動

昨今、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の議論も進んでいることから、企業が事業との関連を強めながら生物多様性保全の活動を検討する機会も増えています。そうした企業に対し、活動の提案や受入を行い、自然環境と社会との関係性を創出する機会をつくります。

学校との環境教育

自然に触れる時間は、子どもたちへの心と体の成長に欠かせないものです。各地の小中学校での環境学習の協力とフィールドを活かした体験学習を引き続き提案していきます。

自治体・行政との協力事業

海の森公園

東京都が進める海の森プロジェクト、今年度は、海の森公園ボランティアのコーディネート継続的に受託しています。グランドオープン（令和7年3月）を目指し、普及のためのイベントや森づくりを通じた環境教育活動も盛んにおこなわれるようになってきました。当会の持つノウハウや実績を活かし、また、公園ボランティアの皆さまとも連携した活動を展開してまいります。



まちだみどり活用ネットワーク

町田市とこれまで意見交換を重ねてきたみどり空間の活用をめざしたプラットフォームづくりが、「まちだみどり活用ネットワーク」としてスタートし、事務局業務を担うことになりました。市内連携を深め、さまざまな活動を展開していく予定です。





活動の推進

ポストコロナの活動スタイルへ

5類への移行、行動制限の解除により、これまでの停滞を取り戻すかのように休止していた計画が動き出し、新たな事業が立ち上がっています。この機運を逃さずフレキシブルに対応するために、さらなるスタッフの拡充、協力可能な人材の発掘が急がれます。遠征や宿泊を伴う企画など、地方での活動の広がりも考えられるため、各地に協力が得られる団体、人材を確保することも重要だと考えています。同時に、オンラインや新たなシステムなど、コロナ対応として蓄積したノウハウも引き続き活用し、全国の会員との交流を図っていきます。

新規会員の獲得

CBT方式導入をチャンスとして

ネイチャー・カルチャー検定にCBT方式を導入したことにより、これまでグリーンセイバーがいなかった地域にも新GSが誕生することが期待されています。CBT導入という先行投資に見合った効果を得るためにも、合格者には積極的に働きかけ、新たな会員、活動主体の獲得を図ります。同時に、各地のGSやその関係者同士の横のつながり、ネットワークの構築もサポートしたいと考えています。

リピーターが増えている一方で、参加するけれど入会しないという方が少なくないという状況もあります。活動の意義や会員としてご支援いただくことの重要性を理解していただけるよう、働きかけを継続していきます。

広報・情報共有

情報発信の多角化

引き続き、ホームページ、聚レター、メールマガジン、各種SNSをそれぞれの特性に応じて使い分け、情報発信、情報共有を推進していきます。募集告知や活動報告だけでなく、活動の意義や、その根底にある考え方などを理解していただけるようなコンテンツも充実させたいと考えています。メールマガジンで連載していた清水理事長のコラムが読める専用サイト開設もそのひとつです。

ホームページの魅力アップ

HPのリニューアルから4年がたち、必要に応じて部分的な修正を重ねた結果、TOPページに必要な情報がない、必要な情報になかなかとりつけないといった声も聞かれるようになりました。HPをきっかけに当協会の活動を知り、検定受検やご寄付につながることも少なくないため、トータルに見直して、よりわかりやすく、魅力的なHPにアップデートしたいと考えています。

事務局運営

自律&共有型の運営体制

運営会議、パートナーズボイスプロジェクトをはじめ、活動方針、内容の決定、事務局運営のプロセスを、会員と共有しながら進められる仕組みが定着しつつあります。さらに聚レターやメルマガの編集など、情報発信にもより多くのスタッフが参加する体制づくりを推進。ひとりひとりがそれぞれの業務に自律的に取り組みながら、必要に応じて連携し、情報共有できる運営体制を目指します。

バックオフィス業務の標準化

新しいスタッフが入ったことにより、あらためて会員管理、受付業務など、事務局運営に伴う事務作業を見直し、誰でもどこからでも対応できるようマニュアルの充実と標準化を図りました。業務の性格上、常勤スタッフも事務局外で活動することが多く、非常勤、アルバイト、テレワークなど、勤務体系も多様なため、業務の連携や引継ぎに課題がありましたが、これらの解決にもつながると考えています。在宅勤務やオンラインミーティングを活用したワークライフバランスの充実にも、引き続き取り組んでいきます。



2023年度 予算計画

◆収入の部

項目	2022年度実績	2023年度予算	主な活動
会費(計)	¥3,074,500	¥3,557,000	
正会員	3,031,500	3,500,000	個人、家族、法人、団体
準会員	43,000	57,000	賛助、ユース
寄付	¥10,700,390	¥2,500,000	個人、あすのはね、キボウノカケハシ等
事業(計)	¥15,835,305	¥21,500,000	
内訳) グリーンセイバー事業	2,187,246	3,000,000	検定、セミナー、過去問・テキスト販売、GS企画
内訳) フィールド事業	2,477,684	3,000,000	フィールド活動委託、法人・団体等の活動受け入れ
内訳) 環境コミュニケーション事業	3,881,225	5,000,000	法人・団体との協働活動やコーディネート
内訳) 行政委託関連	7,289,150	10,500,000	行政委託事業、指定管理関連
その他収益	¥47,053	¥100,000	事業外助成金、その他
収入の部 合計	¥29,657,248	¥27,657,000	

◆支出の部（固定費を含む）

項目	2022年度実績	2023年度予算	主な活動
総務・管理	¥3,761,070	¥3,800,000	固定費、会員管理、日常業務 等
広報	¥3,166,193	¥4,000,000	会報誌・ホームページの作成と運営
事業支出(計)	¥11,456,862	¥19,900,000	
内訳) グリーンセイバー事業	2,756,893	2,800,000	検定、セミナー、見直し検討 等
内訳) フィールド事業	3,010,286	2,400,000	フィールド活動推進、法人・団体との活動経費
内訳) 環境コミュニケーション事業	2,695,178	3,800,000	行法人・団体との協働活動やコーディネート
内訳) 行政委託関連	7,006,074	10,500,000	行政委託事業、指定管理関連
法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000	法人税、住民税、事業税 等
支出の部 合計	¥22,545,694	¥27,150,000	

◆固定費（支出に含まれる）

人件費・通勤費・福利	8,396,354	14,600,000	事務局、アルバイト人件費、社会保険および通勤費
地代家賃	1,953,600	1,953,600	東京事務局ビル
光熱費・リース代 他	1,856,000	1,950,000	水道光熱費、リース代、保険代
労災保険	90,400	150,000	
租税公課・法人税・事業税	575,906	950,000	消費税ほか
固定費合計	¥12,872,260	19,603,600	

前期正味財産	¥5,243,708	¥12,355,262	
当期正味財産増減額	¥7,111,554	¥207,000	
正味財産合計	¥12,355,262	¥12,862,262	

- ・海の森公園事業の再出発、その他委託事業により行政委託事業の増加が見込める。
- ・グリーンセイバーの資格検定会場の増加による収入を目指す。
- ・環境コミュニケーション事業の維持を目指し、アフターコロナの活動継続を目指す。
- ・寄付を積極的にPRし、寄付収入の増加を目指す。

【顧問】 山本 光二

【顧問】 澁澤 寿一

【理事長】 清水 善和

【専務理事】 佐藤（中西） 由美子

【理事】 小久保 広宣

【理事】 築野 敬二郎

【理事】 岡本 俊彦

【理事】 片山 雅男

【理事】 川端 自人

【理事】 小林 健人

【理事】 後藤 洋一

【理事】 塚本 秀貴

【理事】 広瀬 攻

【理事】 松浦 晃

樹医

前理事長

駒澤大学総合教育研究部教授

グリーンセイバー・マスター

グリーンセイバー

株式会社アテナ 執行役員

グリーンセイバー・マスター

神戸教育短期大学児童教育学科元教授

グリーンセイバー・マスター

NPOフュージョン長池 理事

事務局長

グリーンセイバー・マスター

三輪里山フィールドリーダー

株式会社つくば林業

【監事】 三尾 隆志

【監事】 吉田 寛

公認会計士

公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事 中西 由美子

理事・事務局長 後藤 洋一

スタッフ（東京） 石崎 庸子

スタッフ（東京） 加藤 武

スタッフ（東京） 陣野 益実

スタッフ（東京） 大西 智野子

スタッフ（東京） 中西 規章

スタッフ（東京） 小口 純子

スタッフ（大阪） 山本 睦子







団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会
設立 1995年9月19日
ホームページ <https://www.shu.or.jp/>

○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
日本分譲住宅会館ビル8階南
[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448
[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号
[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247
[Mail] kansai.syu1@nifty.com
[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>